ありがとう内田児童館

地域の皆様へご挨拶

平成8年に開館し、長きにわたり多くの皆様にご利用いただきました内田児童館は、この3月を持ちまして閉館いたしました。開館当初より皆様には多くのお力添えをいただき、誠にありがとうございました。

内田児童館を利用した子どもたちが、大きくなって懐かしさから訪れ、成長した姿を見せてくれることもありました。内田の自然豊かな環境の中で、多くの貴重な体験をさせていただき、子どもたちは幸せでした。そして、その経験が子どもたちの心の栄養となり、どれほど成長させてくれたことでしょう。そしてこれからも、思い出として心に残り続けます。共に多くの子どもたちを見守り、支え、ご協力いただきました皆様には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。今後とも地域の子どもたちを温かく見守ってくださいますようよろしくお願いします。

内田児童館　館長
高津　千代子

ニュースポーツで色々なことをやったよ。大だまころがしが楽しかったです。
百瀬 りま　小2

一輪車にのれるようにがんばってれんしゅうしたよ。ころんだけどたのしかったよ。
村山 絆　小3

囲碁将棋教室で、とり方や自分の陣地を守る戦法を教わることができて、よかったです。
青木 遥人　中1

鬼ごっこが楽しかったです。よく鬼になりました。
高山 礼生　中2

ミニ体育館でやったドッジボールや一輪車が楽しかった。
行事ではミニうんどう会が思い出に残っています。先生がおもしろい！
友達がたくさん出来て楽しかった。
これからもがんばってください♡
新井 萠椛と上條 美穂　中3

内田児童館が閉館してしまうのは少しかなしいけど、思い出をたくさんつくることができてよかったです。　藤沢 まいか　中学生

内田児童館には娘3人お世話になりました。
思い出はバスハイクです。バス内でのビンゴもり上がりとても楽しかった。
一輪車に挑戦する我が子を応援……
書ききれない程、沢山の思い出をありがとう。

はちぶせ 内田

令和６年５月１日現在

世帯数	1,009戸
人口	2,284人
男	1,134人
女	1,150人

ササラ踊りの唄と演奏を学ぶ

去る3月26日（火）、明善中学校生徒が、内田ササラ踊り実行会の皆さんの指導によりササラ踊り学習会を行いました。地域と学校とのふれあい教育の一環で今回の開催で4回目となり、三味線と唄の練習を行いました。

中学生は三味線も含めて初めての経験でしたが、興味津々といったところでした。

これからも若い人たちに経験を積んでもらい後継者を育成していきたいと思います。

▶指導を聴きながら真剣に練習する生徒

人事往来

◎明善中学校
教頭　新任　山田　綾子
　　退任　池上　篤

◎松本ろう学校
教頭　新任　宮坂　菜穂子
　　退任　春日　康志

◎寿台養護学校
教頭　新任　小林　里恵子
　　退任　小林　裕典

◎芳川消防署
署長　新任　中村　潤
　　退任　二村　勝彦

◎明善児童センター
館長　新任　百瀬　美穂
6月より
館長　新任　設楽　秀子

◎子ども会育成会
6町会　甕　佳美（会長補佐）
9町会　浜田　はる絵（会長補佐）
9町会　草間　香代（会計）

新任あいさつ

内田公民館
公民館主事
保科　黄（こう）

初めまして。今年度から内田公民館主事となりました、保科黄と申します。

内田地区はササラまつりや運動会など、様々な地域行事があると聞いております。そんな地区で公民館主事を精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願いします。

内田地区
地域づくりセンター
主事
木村　雅徳（まさのり）

4月から内田地区地域づくりセンターでお世話になります、木村雅徳と申します。

美しい景観や住民の皆様の温かさが内田地区の魅力と感じております。

内田地区のお役に立てるよう精一杯がんばりますのでよろしくお願いいたします。

退任者インタビュー

❶在籍期間
❷内田の素敵なところ
❸地区の方へメッセージ

前内田公民館
公民館主事
小河原　萌

❶3年間
❷親切で、温かい方が多い。地域の連帯感が強い。美景（特に法船寺から見る夜景）。
❸内田の皆様、公民館事業へのご参加、行事の運営、また、会うと声を掛けてくださり、ありがとうございました。大変お世話になりました。今後は、内田地区の一ファンとして陰ながら応援してまいります。

前内田地区
地域づくりセンター
窓口担当
細澤　知央

❶2年間
❷景色が綺麗、人が穏やか
❸とても親切であたたかい方々ばかりで、何かと助けていただくことも多く、感謝の気持ちでいっぱいです。短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

つれづれ編集記

年明け、母がケアハウスに入所した。我家から車で十分程、北アルプスを一望出来る高台の施設である。

父が亡くなって7年。気丈に家を守ってきた母も85歳と高齢になった。身の回りのことは自分で出来るが、独り暮らしはいささか危なっかしくなってきた。

生まれ育った佐久平を離れ、新しい環境で生活することへの不安は相当なものだったと思うが、娘が近くにいて安心して暮らせるのなら、と入所を決断した。

バタバタの引っ越しを終えて、いよいよ母の新生活が始まった。個室ではあるが、食事や入浴は他の入所者さんと一緒。半共同生活である。今まで自分のペースで生活してきたので、施設のルールや人間関係に戸惑うことも多いようだ。「この年齢になってこんな社会勉強するとは思わなかったよ」と苦笑いする母。一日も早く「住めば都だね」と穏やかに笑える日が来て欲しいと願う今日この頃。

第7町会　上山　祥子